

高松市自治基本条例と総合計画の関係について

1 総合計画について

(1) 総合計画とは

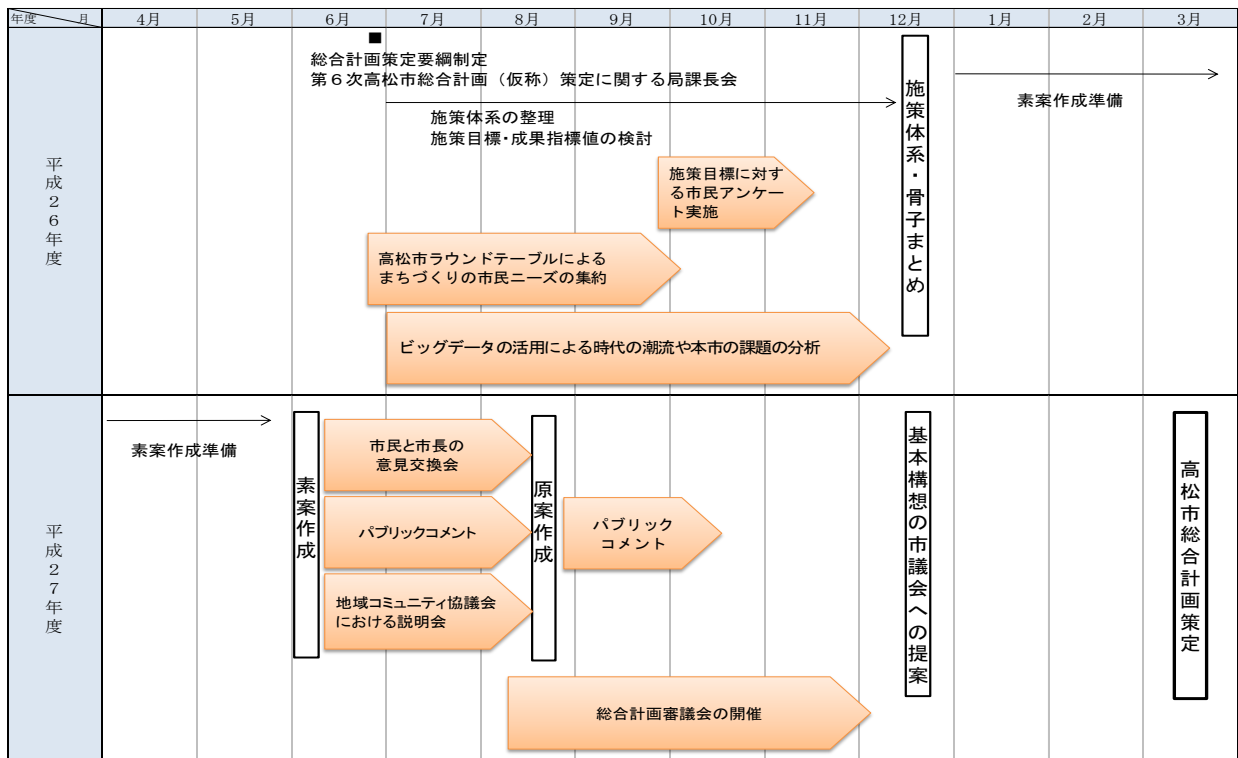
- ・新たな目標と発展の方向性を定め、高松市の新しいまちづくり及び市政運営の基本方針として策定
- ・市が定める最上位の計画に位置付けられるもの

(2) 第5次高松市総合計画（現在の総合計画）

- ア 計画期間 平成20年度～27年度
- イ 構成 「基本構想」と「まちづくり戦略計画」（実施計画）

(3) 第6次高松市総合計画（仮称）

- ア 計画期間 平成28年度～35年度
- イ 構成 「基本構想」と「まちづくり戦略計画」
- ウ 策定スケジュール



2 総合計画策定等の根拠規定（高松市自治基本条例）

第25条第1項

市長は、総合的かつ計画的な行政運営を図るため、総合計画を策定するものとする。

第25条第2項

市長は、総合計画の策定に当たっては、参画の機会を確保するものとする。

第25条第3項

執行機関は、総合計画を効果的かつ着実に推進するため、透明性を確保しつつ適切に進行管理を行うとともに、定期的にその進捗状況を市民に公表するものとする。

3 第6次高松市総合計画（仮称）策定における市民参画の手法

平成26年度に実施のもの

(1) 高松市ラウンドテーブルの実施

ア 概要

お互いが自由な立場で語り合い、意見交換を行うことができるラウンドテーブルを実施し、市民意識調査などでは把握しきれない市民の声をすくい取るとともに、市民の市政に対する関心や認識を深めるための場としても活用するもの

※ ラウンドテーブルとは、重要なテーマについて、市民、NPOなどが、同じテーブルで自由に語り合い、意見交換を行うもの

イ 開催日時

平成26年8月6日（水）、20日（水）、9月3日（水）の3回
（学生は8月6日（水）、9月3日（水）の2回）

ウ 主な意見（出席者延べ83人）

- ・地域コミュニティ活動への参加促進をすべき
- ・地域コミュニティ協議会の活動をどのようにして市民に広く知ってもらうか、これからの地域のリーダーをどう育成するかという、「今後の地域コミュニティのあり方」に関するもの
- ・「子育て」に関して、保育施設を始めとした子どもを預ける環境や雇用環境の更なる充実を求めるもの
- ・若者定住に関して、中心市街地の活性化や自動車を中心とした交通マナーの向上等、都市全体の魅力向上に関するもの
- ・安全安心なまちづくりに関して、地域コミュニティでの見守り活動と交通安全について
- ・自転車の利用に関して、自転車の利用環境の良さを評価しつつも、自動車と同様、自転車に関しても、マナー向上を求めるもの

(2) 目標に対する市民アンケートの実施

ア 概要

総合計画の施策目標の妥当性や成果の目標などについて、市民アンケートを実施し、その結果を踏まえた、市民にとって分かりやすい目標設定を目指すもの

イ 調査期間

平成27年1月13日（火）～1月26日（月）

ウ 調査対象

高松市内在住の満18歳以上の市民4,200人

エ 調査票回収状況

回収率約45%

オ 分析結果の一部

- ・人口減少、少子・超高齢社会への不安を感じていると回答した人が全体の8割強
- ・急激に人口が減少した場合、不安を感じることで、社会保障関連や医療・介護関連など、生活水準の維持に関する項目が高く、文化等の項目の割合が低い。

(3) ビッグデータの活用による時代の潮流や本市の課題の分析

ア 概要

基礎資料として、今後の市政への潜在的な要望等の発見するため、ビッグデータ（ICT（情報通信技術）の進展により収集・蓄積等が可能になった多種多様なデータ）を活用し、ソーシャルメディア上の高松市に関するデータの調査・分析等行うもの

イ 実施時期

基本計画骨子作成に併せて実施（平成26年12月頃までに概ね終了）

ウ 分析結果・対策案の一部（若者の定住促進）

【分析結果】

- ・新卒者は、できれば高松・香川に就業の場を得たいと考えている人の方が多く、また、高松・香川・四国に縁がある人は、Uターン、Jターン等について肯定的に考えている人の方が多い傾向にある。
- ・新卒者にとっても、Uターン等希望者にとっても、高松・香川に定住するためには高松・香川での安定した雇用・十分な収入の確保が第一条件となっている。それが出来ない/見つからないとの理由から、やむなく高松市・香川県外に出る、また戻れないとする投稿が全体的な傾向であった。

【対策案】

- ・高松・香川の有効求人倍率は、平成24年から1倍以上を維持している。それでも仕事がないとの投稿が多いのは、新卒者、Uターン等希望者等求職側の希望と求人側の職種や雇用条件等の間にミスマッチが発生しているためと思われる。
- ・ミスマッチを解消するには、求職者側の高松・香川における雇用環境について意識転換や理解促進、及び雇用条件の間接的な改善支援等が考えられる。
- ・求職者側の意識転換や理解促進に向けた具体策としては、以下のとおり
 - ・高松市内企業の雇用動向や活性中業種・業界についての説明会等の開催（新卒者向け）
 - ・高松市内企業と合同でのUターン等希望者への説明会・勉強会（お盆、年末年始に開催）など

平成27年度に実施のもの

(1) 市長と市民との意見交換会

No	期 日	場 所	参加者数 (人)	うち 女性	質問者
1	7月13日（月）	牟礼コミュニティセンター	78	20	10
2	7月18日（土）	川東コミュニティセンター	34	11	8
3		川島コミュニティセンター	19	6	4
4	7月21日（火）	国分寺会館	38	12	7

5	7月24日(金)	ふれあい福祉センター勝賀	36	5	8
6	7月27日(月)	市役所13階大会議室	42	6	11
7	7月29日(水)	仏生山コミュニティセンター	56	10	8
		合計	303	70	56

(1か所当たり 43.3人)

(2) 第6次総合計画(仮称)【素案】等説明会

No	期 日	場 所	参加者数 (人)	うち女性	質問者
1	7月30日(木)	男木コミュニティセンター	8	3	6
2		女木コミュニティセンター	21	8	6
3	7月31日(金)	屋島コミュニティセンター	8	1	4
4	8月3日(月)	一宮コミュニティセンター	9	3	5
5	8月4日(火)	太田コミュニティセンター	22	6	8
6	8月6日(木)	木太コミュニティセンター	46	17	3
7	8月7日(金)	塩江コミュニティセンター	32	12	4
		合計	146	50	36

(1か所当たり 20.9人)

(3) パブリック・コメント

ア 素案：平成27年7月1日(水)～7月31日(金)

意見総数38件(14人)

主な意見

- ・人口減少と高齢化、加えて財政がひっ迫する中で、総合計画は、総花的と考える。市の良い点と弱点を見つめ、濃淡を明確にした計画が大切だと思う。
- ・中央商店街との連携促進とあるが、商店街に限らず市内各地との連携と明記すべきである。
- ・働きたい母親はたくさんいると思うので、もう少し、子どもたちを預かってもらえる場所、母親が安心して働けるように考えてほしい。
- ・生涯学習について、もっと積極的に取り組むべきである。
- ・水道記念館については、創造都市の面、教育面、文化面において、市が主体的に取り組むべきである。

イ 原案：平成27年9月7日(月)～10月2日(金)

現在実施中